

代表派遣会議出席報告

日付 平成 19 年 8 月 2 日

執筆者氏名 大橋裕二

1 会議概要

1) 名称

(和文) 国際結晶学連合理事会

(英文) Executive Committee of International Union of
Crystallography

2) 会期 平成 19 年 7 月 27 日 ~ 29 日 (3 日間)

3) 会議出席者名

大橋裕二

4) 会議開催地

米国ソルトレークシティ

5) 参加状況

参加国数 : 10 カ国

参加者数 : 10 人

日本人参加者 : 1 人

6) 会議内容

・日程及び会議の主な主題

平成 19 年 7 月 27 日 ~ 29 日

2006 年度会計承認、Acta Crystallographica E 誌の 2008 年 1 月から open access journal 移行の承認、IUCr 創立 60 周年記念行事の承認、第 21 回大阪総会と大会の実施計画とプログラム案承認、次期役員候補決定

・会議における審議内容・成果

大橋裕二会長が会議を主宰して、来年日本で開催され総会と大会 (IUCr2008) の基本計画とプログラム IUCr2008 が承認された。次期役員として、会長候補 2 名、副会長候補 1 名、庶務・会計幹事 1 名、理事候補 9 名を推薦することとした。来年の総会において選挙で決まる。

・会議において日本が果たした役割

3 年に一度開かれる総会と大会が来年の大阪の国際会議場で開催されるが、その詳細案が承認され、実行されることとなった。これは日本の組織委員会 (委員長 : 月原富武阪大教授) と国際プログラム

委員会（委員長：藤井保彦 JAEA 量子センター副所長）の活躍が求められたことである。

2. 会議の様相

理事会は大橋裕二会長はじめとして各国から集まった 10 名の全理事と事務から 5 名が参加し、会長の議事運営の下で、連日朝 8 時 30 分から夕方 6 時近くまで続けられた。議事内容は、昨年度の会計承認、Acta Crystallographica A, B, C, D, E, F と Journal of Applied Crystallography と Journal of Synchrotron Radiation の 8 誌の刊行状況の承認、International Table の online 化の報告、出版物の刊行状況報告、IUCr Newsletter 刊行状況報告、アメリカ、アジア、ヨーロッパ 3 地域学会の活動報告、17 の分科会の活動報告、ICSU はじめ IUCr が加盟している団体の活動状況報告、加盟国の分担金拠出状況、第 21 回 IUCr 大阪大会の具体案の検討、第 22 回マドリッド大会の進捗状況、第 23 回モントリオール大会の予備審査などが熱心に討論された。そして最終日には次期役員 of 理事会推薦者が討議された。これまで各国から推薦された候補者を審査した結果、会長候補としてイギリスとフランスから推薦された 2 名の候補を理事会推薦とした。これは前回の選挙の際に、理事会で会長候補を無理に 1 名に絞ったため、総会で新たな候補が立候補して混乱した前例を考慮した結果である。副会長、庶務・会計は 1 名を候補者とした。理事は改選 3 名であるが、今回は欠員がでることも予想されるので、9 名の候補を推薦することとした。今回の理事会の特徴は次期役員候補者推薦も含めてすべての議題を理事の満場一致で決定したことである。今期は会計状況も安定しており、さらに今後の赤字化の要因とも懸念されていたオンライン誌である Acta Crystallographica E の問題を来年から open access 化（著者が投稿料を払って、読者は無料で読める）することを決定したことである。これで雑誌発行の会計の健全化も図られた。次期理事会は来年の大阪大会終了後から始まるが、大橋会長は前会長として理事会に残るので、引き続き日本の役割は大きい。

次回開催予定 平成 20 年 8 月 19 日～21 日（於 大阪）